様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　23　年　5　月　27　日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：２００７　～２０１１
課題番号：１９５２０２１４
研究課題名（和文）　タンホイザー伝説と近・現代ドイツ文学

研究課題名（英文）　Tannhauser Legend and Modern German Literature

研究代表者
奥田　敏広　（OKUDA TOSHIHIRO）
京都大学・人間・環境学研究科・教授

研究者番号：６０１９４４９５

研究成果の概要（和文）：

欧米近代は合理主義と科学技術の時代と考えられがちであるが、中世伝説が時代遅れな過去の遺物として打ち捨てられていたわけではない。多くの芸術家が中世の英雄伝説や聖人伝説を素材として活用している。しかもそれは、通説となっているような、後ろ向きの復古主義的な目的でもなければ、偏狭な国粋主義的目的のためばかりではない。そこには、宗教や共同体からエロス的な「近代の愛」へという、換骨奪胎ともいうべき、変質には違いないがまた継続性も見られる関係が存在することを、中世に成立したタンホイザー伝説をめぐって具体的に明かにした。

研究成果の概要（英文）：

Western modern times are regarded as era of rationalism and scientific technique. However, then the medieval legend was not deserted as anachronistic relics from the past. Many modern artists used the legend of saints and heroes as material.　And what was more, for neither reactionary nor ultranational purpose, different from common views. My study on Tannhauser legend makes it clear which continuity exists between love for God in medieval legend and erotic love in modern literature.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2007 年度	800,000	240,000	1,040,000
2008 年度	800,000	240,000	1,040,000
2009 年度	800,000	240,000	1,040,000
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000
総　計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：ドイツ文学
科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ系文学
キーワード：聖人伝説、ワーグナー、近代の愛

１．研究開始当初の背景

伝説が、それを生み出した文化にとってきわめて重要なものであることは当然であるが、近代欧米を代表する芸術家リヒャルト・ワーグナーの作品も多く伝説に基づいているのは周知の事実である。しかし一方、ワーグナーの芸術は伝説を批判的に分析し解体しようとするものだとする解釈が、現代ではどちらかと言うと主流となっている。このような傾向には、精神分析やアドルノらの批判的批評もさることながら、伝説がゲルマン精神への回帰をスローガンとするナチズムに利用された、という過去への反省が何といっても大きな原因となっていることは言うまでもない。

２．研究の目的

私は、ナチズムから時間的にも空間的にも離れた現代の日本において、上記で述べたような危惧と恐れをそろそろ克服し、伝説と冷静に向きあうべき時が来ていると考えている。近・現代芸術においても中世伝説が欠くことのできない意味をもっているのは何といっても否定できないことだからである。そういう中で、ある種の統合、すなわち、伝説の単なる継承でもなければ解体でもなく、近代において伝説の何が解体され、何が受け継がれ、そして何が付け加えられたのかという変容の具体的様相と意味を明らかにするのが本研究の目的である。

３．研究の方法

（１）取りあげた中世伝説は、タンホイザー伝説を中心としてはいるが、他にも、ワルトブルクの歌合戦の伝説、聖人伝説としての聖エリーザベト伝説、英雄伝説としてのジークフリート伝説、ハーメルンの笛吹き男の伝説など、もっぱらワーグナーの作品と関係の深いものも含まれている。しかし、本研究の対象となっている近代芸術家は、もちろんワーグナーだけではない。フランツ・リスト、ゴットフリート・ケラー、ルートヴィヒ・ティーク、ハインリヒ・ハイネ、クリスティアン・アンデルセンらの作品も取りあげ、広く欧米近代芸術一般における伝説の意味を視野に入れている。

（２）さらに、本研究の具体的な方法について特筆すべきは、文字通り百花繚乱の観のある現代のワーグナー作品の諸演出を大きく取り上げ、それを議論の中心に置いている点である。戦後のバイロイト音楽祭復興を担ったヴィーラント・ワーグナーの演出に始まり、歌手たちが舞台狭しと動き回り本格的な演技をすることを要求するパトリス・シェローの音楽祭１００周年を飾る『ニーベルングの指環』の演出を経て、現代のワーグナー演出は、ますます大胆かつ先鋭に、かつほとんど「改作」と言えるほど斬新な実験を繰り返している。その内、本研究ではカーセン、コンヴィチュニー、フリードリヒ、ヘルツ、ヴァイクル、ラングホフ、カタリーナ・ワーグナー、クプファーらの演出を主として取りあげた。

もちろん、それらは百花繚乱とは言っても、概ね伝説との関係を否定したり無視したりする傾向が強いものであるのは言うまでもない。そのような演出におけるワーグナー解釈を一方の極に置き、それらを批判的に検討・分析することを通じて本研究は展開されている。それと、本研究が新聞等の時評と違うのは、中世伝説から近代文学へという大きな文脈の中でドイツ文学の歴史と伝統を踏まえつつ、そしてまたそれら

についての最新の先行文学研究を踏まえて論じている点であり、そのような視点から様々の現代演出を取りあげている点である。

４．研究成果

（１）ドイツの近・現代文学に置いて、伝説を過去の遺物として見るのではなく、近代から現代にかけての芸術創造において不可欠で根源的な源泉になっていること、しかもそれは、反動的な意味でないのはもちろん、根源的・原初的なものの何らかの復権や復興を志向したものでもなく、まさに近代のために、近代にふさわしい形での源泉になっていることを明らかにした。たとえば、かつての英雄伝説を引き継ぎつつ、その「愛」というテーマを強調し、拡大することによって、ワーグナーの『ニーベルングの指環』は、いわば換骨奪胎され、そこでテーマとされた「愛」は、因習や宗教から解放され、自由と光輝に満ちた官能的で肯定的な「近代の愛」を、批判と称賛を込めつつ多様な形で表現していることを明らかにした。

もっとも、中世伝説と結びつける解釈が、ワーグナーの作品の唯一の正しい理解の仕方だ、などと私は主張しているのではない。そういう意味で、リストのナショナルにしてコスモポリタンな伝説受容や、ケラーの反語的な伝説受容と、ワーグナーの伝説受容は共通点も持っていたと言わねばならない。

（２）それにしても、ワーグナー芸術における「愛」は、因習や宗教から解放され、自由と光輝に満ちた官能的で肯定的な「近代の愛」であると同時に、また混乱と悲惨をもたらしがちな恐ろしくもあれば獣的ないまわしいものでもある。「近代の愛」の、もっとも純粋で至高の表現者であると同時にまた、その盲目で残酷な本質の表現者でもあるのが、近代芸術家ワーグナーなのである。この「近代の愛」に対する批判的精神の根源には、やはり素材となった伝説の存在があると言わねばならない。

「近代の愛」の一つの側面についてなら、他にも世界文学において例はいくらでも見つかるであろう。たとえば、その肯定的な側面なら、至高で理想的な愛を実践したゲーテのヴェルターがいる。また、否定的、破壊的な側面なら市民の無味乾燥な日常とロマンティックな夢の乖離から死に至るボヴァリー夫人や、妻とその愛人を殺す『クロイツェル・ソナタ』の主人公がいる。しかし、その創造的な面と破壊的な面のそれぞれについて、ワーグナーほどその多層的な形を徹底的に表現した芸術家は他にいないと言わねばならない。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）

①奥田敏広、英雄伝説と近代の愛―ヴァーグナーの「指環」四部作、京都大学人間・環境学研究科ドイツ語部会「ドイツ文学研究」、査読無、55 号、2010 年、1－36 頁
URI:http://hdl.handle.net/2433/10840

② 奥田敏広、アンデルセン童話における自伝性と伝説、京都大学人間・環境学研究科ドイツ語部会「ドイツ文学研究」、査読無、54 号、2009 年、1－29 頁
URI:http://hdl.handle.net/2433/71162

③ 奥田敏広、ある聖人伝説の変容―聖エリーザベトをめぐるリストとヴァーグナー、「希土」、査読有、第 33 号、2008 年、1－26 頁

〔学会発表〕（計０件）

〔図書〕（計１件）

① 奥田敏広、松籟社、ワーグナーと恋する聖女たちー中世伝説と現代演出の共演、2011 年、320 頁

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
なし

６．研究組織

(1)研究代表者
奥田　敏広（OKUDA TOSHIHIRO）
京都大学・人間・環境学研究科・教授
研究者番号：６０１９４４９５

(2)研究分担者　なし

(3)連携研究者 なし